

令和4年度名取市長期総合計画・地方創生総合戦略推進委員会 議事録

- 1 日 時 令和4年7月13日(水) 10:00～11:55
- 2 場 所 名取市民体育館 会議室1
- 3 出席者 (委員) 水田委員長 小島委員 佐々木(洋)委員 林委員 阿部委員 伊藤委員
相澤委員 本郷委員 佐々木(敏)委員 須永委員 阿留多伎委員
(欠席: 宮崎副委員長 根深委員 齋藤委員)
(事務局) 小平企画部長
政策企画課 山家課長 朽木課長補佐 草野係長 久光主査
齋藤主査 行形主査 森主事

4 傍聴者 0名

5 内 容

① 開 会 (司会 朽木課長補佐)

② あいさつ (水田委員長)

お忙しい中、昨年度に引き続き、名取市長期総合計画・地方創生総合戦略推進委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本委員会は、令和2年度に策定した名取市第六次長期総合計画及び、同計画地方創生総合戦略版に定める各施策の進捗状況を検証し、両計画の着実な推進を図ることが目的となっております。

本日は、令和3年度末時点における各施策の進捗状況について報告を受けることになっております。

つきましては、限られた時間の中ではございますが、委員の皆さまそれぞれのお立場から、ご意見やご提案などを出していただきますようお願い申し上げ、簡単ではありますがあいさつとさせていただきます。

※議事に入る前に、委員の自己紹介を行った。

③ 議 事 (進行 水田委員長)

(1) 名取市第六次長期総合計画の進捗状況について

資料: 名取市第六次長期総合計画の進捗状況報告について

資料 1

名取市第六次長期総合計画成果指標ごとの進捗状況について

資料 2

《事務局より説明》

【質疑応答等】

水田委員長： 新型コロナウイルスの影響はデータを見て影響を受けたかどうかを判断したのか、理由の説明としてみたほうがいいのか。

事務局： 各担当課において、成果指標ごとの進捗状況の回答をもらっている。その中で、各担当課の判断ではあるが、数値的に表れているものもあれば、数値は上がっているものの感覚的にコロナの影響を受けているといったものもある。各課の判断が大きいと捉えている。

水田委員長： 両方ということですね。

事務局： はい。

伊藤委員： コロナの収束が見えない中で、去年の取組みにも大きく影響があったものもあったと思う。今年度の方向性としては、担当課にもよると思うが、その都度状況を見て再開できるものは再開していくのか。名取市の全体の方向性としてはどのように考えているのか。

事務局： 名取市の方向性としては、できるものはできるだけ前の活動に戻すようにしている。ワクチンの接種率も進んだこともあり、経済活動や交流など元通りになるよう取組んでいる。ただ、現在また感染者が増加しているので、今後すべて元通りに再開していくかは現時点では不透明である。

伊藤委員： 花火大会もやると聞いているので、大々的に市民の方に周知できると活気も戻ってくると思われる。

本郷委員： 仙台空港は観光面での指標として出てきていないが、市としてどのように生かしていくのか、どのように捉えているのか、考え方について教えてもらいたい。

事務局： 仙台空港は、観光面での成果指標としてはあらわれてこないが、出前講座、施設見学会など空港のあるまちとして市民の皆さんに空港を知ってもらおうという取組みを行っている。誘客についても、国際線の就航再開があ

り、インバウンドが期待されるため、関係課と連携して取り組んでいく。

佐々木(洋)委員： DX 推進にも取組まれていると捉えているが、市民講座や出前講座はオンラインでの実施予定はあるか。

事務局： 状況に応じてではあるが、イベントや講座などについては、講師がオンラインでの参加といったものもある。

佐々木(洋)委員： その際の聴講者は同じ部屋だったのか？

事務局： 席を離して等の配慮の上で、同じ部屋で受講していた。

相澤委員： 各分野目標の中に、「地域」という文言が出てきているが、区長制度が変わったことにより、地域活動が以前に比べて円滑にっていないと感じている。地域に関わるような施策をもっと進めて、最終目標達成のためには活動の指針や行政に携わる一員として働きやすい環境を整備しないとなかなか進まないと感じる。区長制度に関わる担当課で、どのような方針で進めているかについてご教示願う。

事務局： 実務については担当外であるため詳細についてはわからないところもあるが、区長制度については、地方公務員制度が変更となり、特別職としての位置付けができず、これまでどおりのやり方で活動ができなくなってしまうことが制約につながっていると捉えている。

行政側としては、地域の中での活動に対して、協働提案事業を実施している。具体的には新たに団体をつくり活動を始める担い手育成型という入門コースの新設や、行政側の課題を示し、これに手を挙げていただく団体を募集するもの、将来に向けた担い手として小学生かから高校生の団体に活動資金の補助を行うこともファンド事業などがある。

また、教育委員会では、小学校区に地域協働活動の推進本部を設置し、職員も公民館に配置し活動支援を行っている。

相澤委員： 区長さんからはやりづらさの声が出てきているが、地域に関わる方々を活用しながら市の計画達成に向けて取り組んでいてもらいたい。

事務局： ご意見ありがとうございます。担当課にもご意見を伝えさせていただく。制度的なところもあるが、区長さんと市長との懇談会もあるので、区長さん

の活動の環境整備等のご意見をいただければと思う。

佐々木(敏)委員： 前年度よりも進んでいると解釈した。各分野の目標として、このインディケーターが適切なのかをもう一度検討する必要があると思う。

この1～2年でも取り巻く環境が大きく変化してきていて、今のインディケーターのままでいいのか疑問はある。医療施設の合築・誘致や浸水シミュレーションの公表等も含め、この計画を随時変更・見直しが必要になるのではないかと感じている。この先の状況の変化に応じた内容を計画に取り入れていくのか教示してもらいたい。

事務局： コロナや病院関係の話は計画策定時には想定が無かった事象である。今後の行政運営に大きな影響があり、まちづくりそのものの考えを改める必要が出てくる場面もあると考えている。計画期間は11年間としているが、中間年次である令和6年度に向け、基本計画の見直しなどを内部でも議論していきたい。また、インディケーターがすべて計画の内容を代表するような数値になっているとは思っていないが、客観的に進捗状況を図るものとして捉えている。

佐々木(敏)委員： 世の中の流れに応じて、計画を検討していく、取り組んでいくという認識でよろしいか。

事務局： はい。

小島委員： 昨年から名取駅東側の賑わいづくりとして取り組み始めたが、コロナの影響でワークショップができなかったが、今年度に入りやっとワークショップが開催できた。

賑わいづくりといっても、中心市街地の整備については、歩道整備の話があり、地権者と交渉ができた部分から実施している。しかしまちづくり会社のみの方では進捗が鈍いところもあり、歩道が整備されないと、中心市街地の賑わい創出が難しいと感じている。

名取が丘や、植松田高線の整備は進んでいるようだが、名取は中心市街地の歩道整備が遅れているように思える。今後市としてどのように考えているのか聞きたい。

事務局： 旧国道、現在は県道であり、市として整備を進めることはなかなか難しい場所である。なお県に対し、毎年仙台大都市圏広域行政協議会のほうで早期に

整備していただくよう要望を行っているところである。

小島委員： 県道のため難しいところもわかるが、まちづくり会社のみでは難しくなかなか進まない部分もあるため、名取市としてもご協力をお願いしたい。

佐々木(敏)委員： 県道だから市は関係ないといったスタンスは良いと思わない。県に対して地元の方々の声を伝える機会を作ってもらいたい。市としてしっかりと前向きに行っていただきたい。

事務局： 担当課に伝達し、市としてもできる部分は連携して取り組んでいく。また、県にも話し合いの場を設けていただいたりしながら、要望をしていきたい。

阿留多伎委員： 意見として2点申し上げる。1点目は資料2の資料作りのお願いだが、地方創生総合戦略版の資料4のように、基本目標に対しての目標数値や方向性、具体的な施策の内容といった資料のほうがわかりやすいと思う。

2点目として、多かれ少なかれコロナの影響はあったと思うので、影響が無かったとしてしまうのは無防備ではないかと感じる。第六次長期総合計画策定の際は、コロナはなかったので、対策を総括した上でそれぞれの施策の中に今後どうするかといった計画を立てたほうがいいと思う。

事務局： ご意見として頂戴する。資料作りについてはより分かりやすいように来年度に向けて検討していく。

また、令和6年度の間年度に計画の見直しを検討とともにコロナの影響の総括も含めた形で進めていきたい。

阿留多伎委員： コロナ対応については中間年度の見直しとは別に、2年間の経験も踏まえ、名取市のコロナへの対応や方向性を示した計画を策定し、各種施策に取り込んでいくべきだと思う。

また、資料の進捗率は折れ線グラフなどにさせていただくとよりわかりやすい。

市民満足度の計測については、中間年度での見直しにおいて紙媒体での実施ではなく、ネット上で簡易にできる調査なども検討してほしい。

水田委員長： アンケートに関して、尚綱学院でも調査は実施しているので、相談していただければ協力させていただく。

(2) 名取市第六次長期総合計画 地方創生総合戦略版の進捗状況について

資料：名取市第六次長期総合計画～地方創生総合戦略版～について 資料 3
名取市第六次長期総合計画地方創生総合戦略版重要業績評価指標
ごとの進捗状況について 資料 4

《事務局より報告》

【質疑応答等】

佐々木(敏)委員： 資料 4の NO.45 救急救助体制について、現場到着までの時間が伸びたのはコロナ対策の強化で仕方ないと思う。しかし問題なのは、到着してから病院に搬送するまでの時間の長さだと思う。現場から病院までの搬送時間がわかるのであれば付け加えていただきたい。

事務局： 承知した。

本郷委員： 市内の地域で状況は違うと思うが、田舎のほうでは民生委員など役員がなかなか決まらない。なり手がいないという地域の現状を知ってもらいたい。

林委員： コロナ前の計画なので、内容によっては人を集めてやればいい等の事業も見受けられる。コロナの影響で人数制限などもあると思うので、やめるものはやめてしまうのも必要なのではないか。

事務局： すでに役割や目的を達成しているものなどについては、新しいことを行うことも踏まえ、廃止をしていく必要があるとは捉えている。
行政評価において、目的・達成状況を判断し、事業縮小、廃止といった見直し作業も行っているところではある。経常的な事業はやめづらいが人員や予算が限られているので、必要に応じて見直しを行っていきたい。

伊藤委員： 道路整備やバリアフリー整備を進めるのはいいことである。最近も大きな地震があり、タイルの剥がれや凹凸、市道から施設などへの乗り入れる部も段差が多いと感じるので、その都度良くすることで市民の満足度の向上につながると感じている。

事務局： タイルが剥がれている、段差がある、穴があいているなど、パトロールやLINEでの道路通報システムも含め、危険な箇所、不便な箇所から順次整備を行っている。ただ箇所数や市域も広く、限られた予算の中なので、すべてをすぐに行うことは難しいが、お気づきの点があればご一報いただきたい。

須藤委員： 自分は父母教師会の立場で来ているが、児童センターの施設利用者について、ほとんどが放課後児童クラブの人数かと思われる。自由来館の記載もあるが、自由来館の場合、申込が必要であったり、利用時間をすぎると料金が発生したりと、ハードルが高いと思う。子ども達の居場所づくりのために、自由に利用できるよう、児童センターの有り方や運営の仕方などを見直してもらいたい。

事務局： 自由来館に制限をかけてはおらず、遊びにきた子どもたちは自由に利用できるようになっている。ただ、利用時間は決まっている。

須永委員： 自由来館でもあらかじめ保護者の申込が必要か。

事務局： 何かあったときの緊急の連絡先として、保護者から申込書はもらっている。

須永委員： 児童館は地域の子供たちの窓口であり、子どもの居場所としてだけでなく、逃げられる場所として、いつでも解放していることが必要であると思う。保護者からの利用申込が必要であれば、子どもたちが保護者から逃げられる場所がなくなってしまう気がする。その点についてご検討してもらいたい。

④その他 特になし

⑤閉 会

令和4年7月27日

委員長 水田 恵三
